

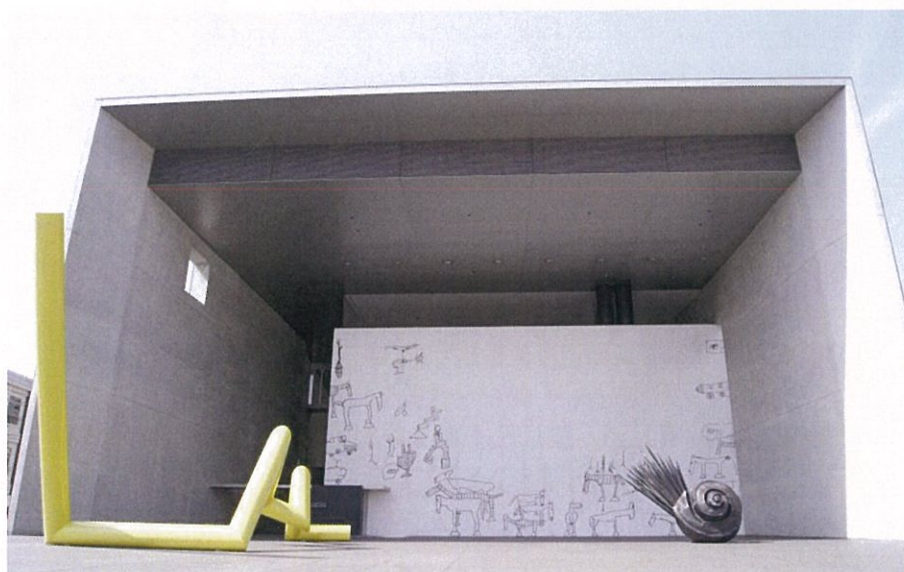
フォーア

～（女性建築士の輪）～

奈良県建築士会 女性委員会

2015 年 秋号

第 84 号



香川県 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

設計：谷口吉生

目 次

- 第25回 全国女性建築士連絡協議会に参加して
- 第35回 近畿建築祭和歌山大会
- 琵琶湖ペーロン大会に参加して
- 私と建築
- ～ご案内～
- 今後の事業予定

- 杉田 数代 1～2ページ
- 梶谷 治美 3ページ
- 武市 啓子 4ページ
- 安田 千鶴代 5ページ
- 6ページ
- 7ページ

第25回 全国女性建築士連絡協議会に参加して

杉田 数代

平成27年度第25回全国女性建築士連絡協議会が、9月25日（金）・26日（土）両日に独立行政法人国立青少年教育振興機構国立オリンピック記念総合青少年総合センターで開催されました。



（国立オリンピック記念青少年総合センター模型）

25日（金）は「カルチャー棟小ホール」で開会式が行われ、当日大阪を時間の余裕を持って出発したつもりでしたが、センターの敷地内を右の建物や左の建物と出たり入ったりしているうちに、受付に着くのがギリギリとなってしまう、受付を済ませ慌てて荷物を置き着席、ちょうど午後1時30分に「開会式」が始まりました。主催者挨拶（全国建築士連合会副会長：岡本森廣氏）から始まり、来賓挨拶・委員長挨拶、運営説明（日本建築士会連合会女性委員長：永井香織氏）と続き、基調講演のテーマ「全建女の立ち上げと住環境づくり」（講師・村上美奈子氏：初代連合会女性委員長）は次のような内容でした。



女性建築士の組織の必要性（全建女の役割）では、

女性が「場」の力を生かし、青年・まちづくりと並ぶ、重要なパイプとしての位置づけがあるとのことでした。「重要なパイプ」という言葉に身の引き締まる思いです。若い人の仕事の課題としては大学を出て初めて差別の実態に気付くことが挙げられました。東京建築士会の設立当初は「婦人差別撤廃条約」の早期批准に関する要望書を提出し、社会の課題として「高齢化社会」について全建女で先駆けた取り組みにより、多くの単位士会で女性が地域のリーダーシップをとることができるようになりました。改めて先輩の方々のご苦勞に感動感謝の思いです。女性建築士の仕事への取り組みバリアフリー設計を、保育所・こども園などにも生かし、専門家として中央への発言の必要性や、保育士さんから出ている要望などについて建築士として如何に課題提起し、こどもの住環境を守ることができるかを発言していく必要があるとし、全建女の今後と未来につなぐとしてお話が終わりました。

15分間の休憩の後で行われたパネルディスカッションは「未来の居住環境と暮らし方」というテーマで、長いキャリアをお持ちの年齢も業種も異なるパネリスト4名による「暮らし方」に焦点を当てた、「未来」についてのディスカッションです。内容は次のようなものでした。



1. 自己紹介
 2. 生活や仕事の面で昔と今で変わったと感じる事
 3. ワークライフバランスで自分が気を付けている事
 4. 今の自分の暮らし方で感じている事と住宅に対して思う事
 5. 自分が考える未来のくらしで重要な事等
- いいお話が沢山聞けました。

26日(土)は「子どもと住教育」がテーマのF分科会に参加しました。今昨年までは「高齢社会」をテーマにした分科会への参加でしたので、初めてのテーマに少し緊張して臨みました。内容は次のようなものでした。

1. 進行説明
2. コメンテーターによる活動報告
3. コメンテーターへの質疑応答及び意見交換
4. まとめ



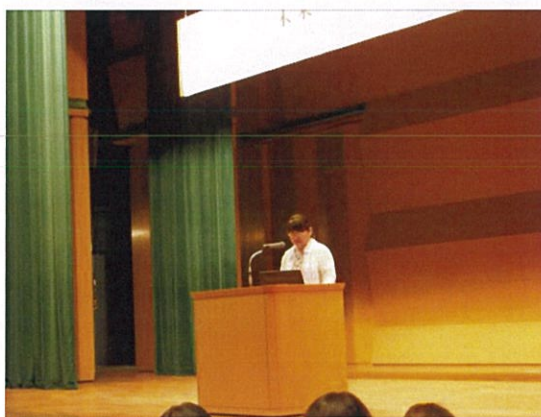
活動報告は「工業系学生との『信州環境ECOコンテスト』開催について(長野県建築士会、青年・女性委員長北村陽子氏)でした。平成20年度の第1回から始まり、平成27年度の第8回まで委員の方々が毎年学校を訪問する中で、学校の先生との交流が進み、ECOコンテストに対する認識も定着する中、何とか授業として時間を頂けないかとお願いして3年で、ようやく1校ではありましたが、1年生から3年生まで各学年1時間ずつの授業をさせてもらうことができ、建築士と学生との本当の交流が始まったそうです。このような地道な努力を重ねてこられた皆さんの活動に感動し、私達もがんばらね

ばと心に深い感動をおぼえました。



これはF分科会の意見交換の風景です。参加者の自己紹介を兼ねて、各自の地域の話の中から問題点を探りだしましたが、頭が固くなかなか切り口が見つかりませんでした。

26日の締めくくりは各分科会の報告会でした。



D分科会については本保委員長が報告されていましたが、全ての分科会の報告が無事終了し、第25回全国女性建築士連絡協議会は閉幕いたしました。

第35回 近畿建築祭和歌山大会

『開創 1200 年の輝き』

～世界遺産・霊場高野山に集う～

梶谷 治美



10月3日、晴天に恵まれた高野山に近畿の建築士会の方々がたくさん集まり、大会が始まりました。

開催地会長の挨拶、協議会会長の挨拶、後援の紹介、来賓の紹介、挨拶と行われました。来賓には、高野町町長、高野山大学学長、徳島建築士会が列席

されていました。

高野山は816年に弘法大師により開山され、今年は1200年目に当たります。2004年には世界遺産に登録され、それ以来多くの外国人観光客が訪れて、今後も益々訪れる方が増えていくそうで、高野山の空気に触れ、魅了され、癒されて帰られるようです。



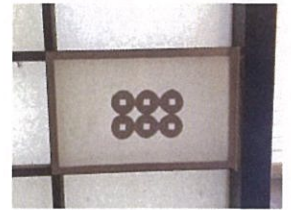
基調講演は、高野山大学准教授森本一彦氏で、テーマは「高野文化圏における民族・歴史」。森本准教授は高野町生まれ、関西大学大学院、総合研究大学院大学を修了、開智高等学校教諭、京都大学大学院文学研究科特定准教授を経て、高野山大学文学部人間学科准教授になられたことから、ご本人も「考えると高野山に縁があるのでしょうか」と言っておられました。専門は、高野山周辺地域の御田（おんだ）祭の比較研究で、講演の概要は、高野山が典型的な宗教都市であるために、周辺地域は物資を作り運んで宗教都市を支える高野文化圏を形成したこと、また大阪や奈良の御田祭は、御田植神事や田遊びを模擬的に演じて豊作を祈念するが、高野山周辺の御田祭のように田植えから奉納までの全生産過程を演じる例は少なく、天野、針瀬、杉野原、久野原地区の御田は文化財の指定を受けたが、後継者が少ない為に2～3年に一度の開催となっており、真国地区では、祭が一時途切れた為に文化財指定が受けられなかったが、現在は高校生が住民への聞き取り調査、資料の研鑽を積んで、高祭の伝承をしていて、この事はこれから祭を続けるうえでも大切なことで、これによって地域の絆が生まれている、という内容でした。

森本准教授は、各地区の祭を見に行っていきたい、祭の行わ

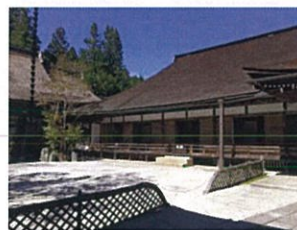
れる建物を見て、地区にとってどのような役割を持つ建物なのか、祭と土地の人々との繋がりを皆さんの仕事に活かしてほしい、と締めくくられました。

午後からは、各エキスカージョン・セッションにわかれて、移動しました。私は、近建女コース「蓮華定院の奥様に聞く!! ～暮らしと建物～」に参加しました。

蓮華定院は1190年頃に念仏院として開創され、門、本堂、庫裡は桧皮葺です。その後、関ヶ原の戦いで負けた真田昌幸、幸村父子が家康の命により蟄居していました。門、襖、障子、調度品、什器に六文銭が使われていて、襖の紋の配置は斬新です。昌幸の遺品なども展示、保存されています。住職のお母様のお話はこのような歴史の紹



介から始まりました。大正9年4月1日生まれの現在95歳。高野山の近くで生まれ育ち、小学校を卒業すると橋本の女学校での寮生活を経て、婦人公論の写真を見て憧れた東京の女子大に進学し、先生が皆外国人で英語しか話せない中で英語を猛勉強されたそうです。昭和16年に女子大を卒業後、帰郷し、縁があって蓮華定院に嫁ぎます。この頃には戦争の影響が高野山にも及んできて、参拝者も修行僧も少なくなってしまう。勿論、宿坊の経営も成り立ちませんでした。戦時中は宿坊を海軍の予科練の宿舎に貸して生活を支え、終戦後は外国人兵士の宿舎として使われました。ここで英語が話せるお母様の出番です。外国人との問題解決に走り回る日々



が続きます。言葉が通じると外国人が多く宿泊し、御主人の住職と三人で仏教談議をしたそうです。現在も外国人の宿泊が多いとのこと。お母様の元気の

源は、精進料理と感謝の気持ちを忘れない事だそうです。お話の後には院内、宿坊の見学をしました。本堂の前庭にサンスクリット語で平和を表す梵字が住職の手で書かれていました。又、宿坊の広さにビックリ、迷子になりそうな程でした。

エキスカージョンから閉会式の会場に戻る途中、国の登録有形文化財の高野幹部交番を見て、普門院を参拝。本堂が工事中の為に上座に安置された大日如来様に手を合わせました。醍醐の花見の襖絵の前で写真を撮り、小堀遠州のお庭を眺めて、院を後にして会場へと戻りました。閉会式では会旗の引き継ぎをして無事終了しました。

琵琶湖ペーロン大会に参加しました

武市 啓子

今年も昨年に続き、8月23日に琵琶湖で開催されたペーロン大会に参加しました。

朝7時45分、生駒駅を車で出発。きれいに晴れた天気の中、遠足気分で琵琶湖に向かいました。9時前に無事到着。早速、近畿女性委員会のテントを発見し10時と午後3時の2回の出廷に向けて、漕ぎ方の練習をしました。おやつや飲み物もあり、わいわいとにぎやかな話で盛り上がりました。



わたしたちは、女性10人漕ぎのボートで、滋賀県女性委員会のチーム「ゴーゴー女性委員会」と近畿女性委員会混合チーム「近畿女性委員会」の2廷で出廷します。

まずは、みんなで漕ぎ方の練習。息を合わせ、タオルの上下を持ちオールに見立て、「ソーレ、ソーレ・・・」と声を合わせる練習をしました。これだけでも結構汗をかきます。

さていよいよ出廷。ドラゴンボートに乗り込んでまずは、スタートラインに行くまでが大変。沖まで漕いで、Uターンして5艇が並んでやっとスタートです。

太鼓の音に合わせて漕いでいきます。最初は車と同じで走り始めが重く、息を合わせて「ソーレ、ソーレ・・・」。10人で漕ぐので後ろの人に当たらないようにオールをまっすぐ深く差し込んで後ろへ。そのうち舟が滑り出すように水の上を進んでいる感触がたまりません。来てよかったと思う瞬間です。



約400mを3分20秒位でフィニッシュ。漕ぎ終えたときは息も切れ声もかすれてしまうのですが、でも達成感があります。

これで終わりではありません。ボートを乗り場まで戻さなければなりません。次のチームがボートが戻ってくるのを待っています。

結局2回漕いで、5位でしたが4位の滋賀チーム「ゴーゴー女性委員会」にあと2秒の差でした。ペーロン大会に参加し近畿の女性委員会の皆さんと、夏の日を思いっきり楽しんできました。

来年は皆さんもぜひ参加して盛り上げましょう。



将来の進むべき道を選ぶにあたり、母が「これからはIT関係か建築設計が良いと思うよ」と、高校生の私に囁きました。これは母の憧れであり私のものではありませんでした。母には親子ほど歳の違う長兄がおり、吉野実業学校(新制:吉野工業高等学校)を卒業後、大阪電気軌道(現:近畿日本鉄道)の路線部に務める兄の描く図面は母の憧れでした。自分の夢を娘に託し、私はそれを自分のものとして建築の道に進みました。

最初に務めた設計事務所も母の口利きでした。奈良県内では建築関係の仕事につく吉野郡出身者が多く、吉野郡生まれの母の女学校時代の地元の友達の紹介で、大和高田市に有る吉野郡出身者の事務所に務めることとなりました。この事務所には既に2名の女性所員が在籍し、その内の一人が上田壽子さんです。彼女とは、在籍3年余りでは有りましたが、以後も私の人生において重要な人となります。

この事務所は所長と男性2人、女性3人。その時は女性の数が勝っていることに違和感が有りませんでした。当時としては女性の多い事務所だと後になって気づきました。結婚し妊娠10ヶ月で退職した後は子育てという生活にどっぷりと浸かっていた時、上田さんから、建築士会の女性委員会の前身である女性サロン主催の一日見学会の案内を頂いて子ども連れて参加して以来、歳の離れた二人の娘は、「うーちゃん、うーちゃん」と親戚のおばちゃんと思って育ちました。1級の試験の受付が始まると「受付始まってよ。どうするの?」との上田さんからの電話で、1級受験。長女が幼稚園入園近くになると、「知り合いの事務所が所員を探しているから、取り敢えずいって見たら?」と促され、在宅及び所員として、2013年6月まで勤務。

思えば、最初の事務所は公共の仕事が多く簡単な手伝いとコピー焼き、製本造り、行政手続(申請)等で、先輩の図面を焼きながらすごいなーとは思いましたが、退職してそれで終わりだと思っていました。

次に行った事務所は、長女が幼稚園に入園する頃に丁度車の免許を取ったばかりで、上田さんから「住んでいるところから近いし、車に乗れるから行ってみる?」と言われて、深く考えずに「お願いします」と出掛けました。其処は成程、地図では近いが車がないと時間の掛かる場所でした。

この事務所は、病院建築、中近東のコンクリートのプラント、西宮やその他のラブホテル、三重や大阪の事務所ビル、飲食店等の商店建築、薬品製造工場、幼稚園、小学校、福祉施設等々で、もちろん住宅も多く手掛け、数寄屋建築も数件有り、扱った物の殆どは、監理付きで有ったのも良かったです。面白いほどの多種多様な建物を経験する事が出来ました。この事務所は多忙でしたが、今にして思えば実に楽しかったです。次から次に用途の違う建物の設計が入って来ました。この事務所の所長もユニークな人で、出会えたことに感謝しています。「それは無理」と目を見開く様なものでも、所長は、出来ると言って仕事を受け、受けたからには、やるしか無いと取り掛かると、案外出来るもので四苦八苦しながらも、どうにか納まる。最後には、この世の中で起こったことは、大概のことはどうにか納まるものだとなりました。現場で起こる問題も絶対解決方法は有ると思い、立ち向かうと納まるべき形に納まるものです。

2度目の事務所も体調を崩して退職し、元来怠け者の私は1年余り静養と言う名目でゆったりと流れる時間を楽しんでいましたが、それにも飽きて事務所の看板を上げ仕事を続けている次第です。

今、母の一言で一歩踏み出した道が今日まで真直ぐ続くとは思いませんでした。歩んできた道で出会った数多くの人達にも恵まれ、夢中で歩いてきました。以前から、60歳は人生の折り返し点(余力を残して)と決め、これからが人生の楽しみの始まり。今まで以上に実り多い時を歩んで行こうと思っています。

～ご案内～

近々予定されている企画の御紹介です。詳細は同封のチラシをご覧ください。

★2015年ユニバーサルデザイン講演会★

「女幸プロジェクトのその後とユニ
バーサルによる「清溪川再生」

講師：趙 玟姫（チョウ ミンジョン）氏

演題：女幸プロジェクトのその後と、
ユニバーサルデザインの視点も
加味された「清溪川再生」

日時：11月9日（月）18：30～20：30

場所：奈良建築士会館

定員：30名

締切：11月1日（日）

★3委員会合同見学会★

日程：平成27年11月28日（土）
～29日（日）

見学地：岡山～鳥取方面
奈義町現代美術館・鳥取砂丘等

定員：40名

参加費：25,000円（会員）

締切：11月13日（金）

★近畿建築士会協議会

女性部会主催セミナー★

第2回 くらしとすまいをみつめる

「木材料・木構法等について

実例を見ながら学ぶ」

住宅等への木材の利用促進、普及について
考えるうえで、最近の木材料や利用実例に
ついて皆様とともに、学んでいきたいと思
います。

講師：白波瀬 智幸氏

（株）竹中工務店設計部主任

川端 眞氏

（川端建築計画）

宮内 寿和氏

（宮内建築）

日時：12月12日（土）13：00～
受付開始

会場：大阪木材仲買会館

〒550-0015

大阪市西区南堀江4丁目18-10

参加費：¥1,000（建築士会員）

¥1,500（一般・会員外）

締切：11月30日（月）

申込先：（一社）奈良県建築士会

事務局宛 FAXにて

今後の事業予定

- 11月 1日(日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第2回)
- 11月 8日(日)
三重県建築士会青年委員会合同見学会
- 11月 9日(月)
女性委員会 UD 講演会(奈良県建築士会館)
- 11月15日(日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第3回)
- 11月25日(水)
住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 11月28日(土)～11月29日(日)
3委員会合同見学会

- 1月17日(日)
文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第4回)
- 1月21日(木)
奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会
- 1月27日(水)
住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 1月31日(日)
青年委員会 建築士試験合格者祝賀会(予定)

- 12月 3日(木)
二級・木造建築士「設計製図」試験合格発表(予定)
- 12月 3日(木)
理事会
- 12月12日(土)
近畿建築士会協議会女性部会合同継続セミナー
- 12月16日(水)
住宅相談会(奈良県建築士会館)
- 12月17日(木)
一級建築士「設計製図」試験合格発表(予定)

編集後記**

秋深まる日々ですが、夏の日のお話をさせていただきます。
今号の武市様の記事にもありましたペーロン大会ですが、実は、私も参加して参りました。他の支部の方々のパワーに圧倒されながらも、皆で息をあわせてペーロンを漕ぐのは、とても気持ちよく爽やかなものでした。よろしければ皆様、来年ご参加いかがですか。日頃の運動不足解消にお勧めです。
ちなみに後日、私は、筋肉痛がやってきました。

これから朝夕冷えてまいりますので、お体にはくれぐれもお気をつけくださいませ。

(寺岡春恵)

